



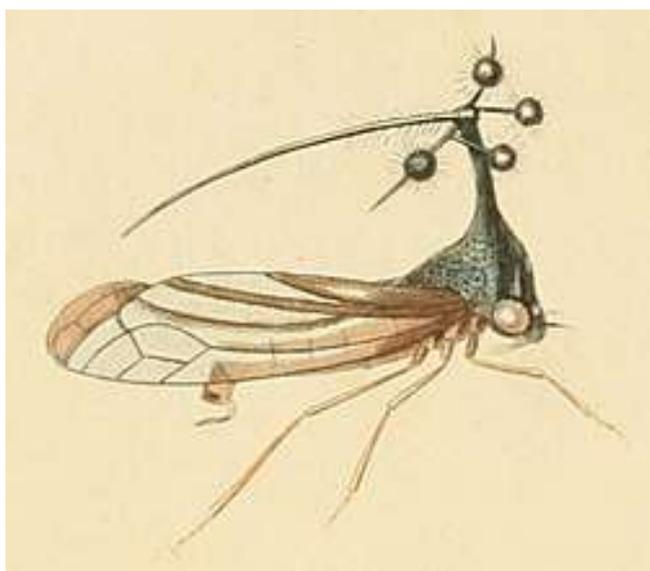
館長だより

山形県産業科学館

令和 6 年 1 2 月 4 日 (水)

発行 館長 加藤 智 一

ヨツコブツノゼミ



すが、詳しい生態はよくわかっていません。そして驚くべきはその学名。Bocydium tintinnabuliferum。なんて読む？カタカナ表記するとかなり危ない。「ボッキディウム・チンチンナブリフェルム」。読み間違え注意!!!! とてつもないインパクト。そして何と云ってもその見た目。奇抜なツノ？は何？このツノにはどんな役割があるのでしょうか。結論から言えば、何も分かっていないのです。擬態？餌を引き寄せるため？メスに気に入られたい？はたまた飛ぶのに有利？全部？。研究者泣かせの一物なのです。

(出典：AREA dot. ©丸山宗利, ウィキペディア Wikipedia, <https://dot.asahi.com/photogallery/archives/2018072100004/4/>)



マヌールのゆうべ

キャラクター図鑑

No.002

生物好きなら皆が見ている NHK の番組『ダーウィンが来た!』。この番組には「マヌールのゆうべ」というコーナーがあります。毎回登場するスナック？のママ「マヌ子ママ」。そして自称アイドル、アルバイトの「ツノミン」。それぞれモチーフとなった生物は何かと言えば、「マヌ子ママ」は「マヌネコ」(哺乳類 マツコ・デラックスではないようですが、かなり寄せています)。そして「ツノミン」はヨツコブツノゼミ (ちっちゃな虫、昆虫) であります。全く種族の異なる者達が等身大で語り合っているわけです。面白そうでしょう。ところで、この「ツノミン」こと「ヨツコブツノゼミ」には、公の館長が触れて良い話なのか悩むところではありますが、ちょっとエッチな秘密 (日本人的にはですよ) が隠されていることをご存じでしょうか。

その前に「ヨツコブツノゼミ」について、ざっくり解説いたしますと、「ヨツコブツノゼミ」はコロンビアなどの南米に住む小さな昆虫です。なんとその全長は 4mm。セミという名前がついていますが、セミの仲間ではありません。セミよりもヨコバイという昆虫に近縁で、カメムシ目。ツノゼミはそもそも独自のツノゼミ科という分類群を有しており、世界では 600 属 3200 種が記載されており、日本でも 16 種が確認されているそうです。不完全変態を行い、単独で生活し、若虫および成虫は葉の裏に生息し、樹液を吸収します。夜間、成虫は人工光源に誘引されま



ヨツコブツノゼミ

ツノミン

自称アイドル!?



ヨツコブツノゼミ